葉の定義に忠実であるということ

るまい。

しているということには決してなしむかかわらず答辞にせよ送辞にせ は高田君の答辞が皆の意見を表わることなど不可能に近い。それに

と言い宮崎先生の発言にもそうい

意。

(以上要約)

対して主体的・積極的であるべ

度ではなくて、もっとそれらに

ريح

の管理にあたらせるやり方の

当てはまる。)なぜというに、一 の点は答辞のみならず、送辞にも 数の方が良いのではないか。(こ

るというような視点にたった館

『みにくい物や美しい物を眺め

百人近い集団の意見などというも

のは、全く一人の人間に体現させ

の言葉が答辞であるという、言

祝辞や式辞に対して述べる答

が出来る。

おそらく、答辞とは元

Na

(1)

かの 時間に それをすると いうの

現に卒業式における高田君の答辞一ことである。それは、できれば答一ということを聞いてほしい。

われていなければならないという

Oこれに反対の意見はないか、

視点にたった態度。だったのだろ うか。むしろ、これから巣立って

ものや美しいものを眺めるという

というような事を言った。しか

にかくやらんといかん。

『考えているだけやなくて、と

は祝辞や送辞に比べてみると、決一辞の前になってからの討論ではな

られた。)それで弄遠は、社会

言葉や病人の例などを出してこ ましい。(この外、イエズスの

を思いどおり改革できないとし

ても、楽観的な態度をもってや

してまとまったものではなかっ

行なわれ、百八十五名の卒業生は洛星を去っていった。

去る二月四日、新講堂において第十三期生の卒業式が型通り

校長祝辞、在校生送辞の後、卒業生代表の高田君が答辞を述

、 在校生の "盤の光" 合唱のうちに式は終った。

今年の卒業式は、中学生も参加せず、毎年卒業生一人一人に



洛星新聞編集局 京都市北区小松原南町 TEL(463)3281(代)

印刷㈱吉川印刷工業所

来年度から生徒心得一部改正

ちをとり、例年になく簡単なものであった。報道によると、京 手渡されていた卒業証書も、総代が代表して受取るというかた

一府下では卒業証書を郵送する学校もあるそうであり、卒業式

尽

休

み

の

集

合

は

廃

止

は

蒈

勤

を

除

(1

T

廃

퍄

力

15

ン

は

क

べ

T

自

由

に

制

帽

あ

る

61

は

無

帽

に

帰

宅

後

0

私

服

は

自

由

に

| 簡略化は全国的な傾向であろう。

卒業式無事終わ 全体に簡素化



を聞いて り方を採用した場合には問題が出 それにもう一つ、そういうや

祝辞・答辞

ていたのではないという点におい うに式の前にちゃんと出来上がっ は、それが校長祝辞、在校生送辞 という点である。それは旧来のよ一である。むろん皆は、高田君にま の時その場で作ったものであった を聞いた後に、一人の卒業生がそ 今度の答辞で特徴的だったこと できないでもないが、しかしそれ かせたのだからという言いわけが 問が出てこざるを得ないという事 はなかったのか?というような疑 るのか、単に高田君だけの答辞で れが本当に卒業生の答辞だと言え 度の場合について言うならば、そ てくるであろう。というのは、今一のそして縦のコミュニケーション

は、そうたやすく誰にでも出来る|前に高三の間で活発な討論が行な う。しかし実際問題として考える | う点について、一つの想点を出し 来そう あるべき ものなので あろ のをどう変えていけばよいかとい 送辞を聞いた後のわず一てみたい。まず、今度のような答 辞が成立する為には、必ずそれ以 それではこの後、答辞というも って、、答辞を言うものは、 である。さらに欲を言うならば、 いは在校生一同という形をとるの よ、形式的には卒業生一同、あるう問題点があることを指摘し、 答辞の後簡単に卒業生全員に向か 〇もうほかに言いたいことはな

し、校長先生の祝辞は

"みにくい

> 胃 押し寄せる報道陣

ということである。それから、答をとることを勧められたわけであ

辞は一人の人にやらせるよりも複

るが、高田君はこれに対して次の

が行なわれていなければならない

ここで校長先生は、高校を卒業す

る者達に向かって、楽観的な態度

に友として勉強してきた中での構 中一から高三までをとおして互い くて、むしろ日常の、即ち彼らが

ってほしい。

って我々は 商品でしかないのか?

板実現

斉決

彼らにと の手による「掲示板」実現に全力 して公約として掲げてきた、生徒 生徒会執行部は、発足以来一貫

を注いでいる。 月終末にも掲示板設置のクラス決

一に踏切ったのは、すでに任期の期 評議委員は各クラスに戻って、二一的な姿勢をうち出して実現の方向 瓜多数で可決された。その結果、 ナとする執行部案が審議され、賛 万式による掲示板の自主管理を骨 なわれた評議委員会では、委員会 二月十九・二十両日にかけて行一て発表の自由を生徒の手に取戻す 委員会方式という一見、自主規制 いては触れていなかった。今回、 といった趣旨を述べてきただけで 従来、執行部は「掲示板」によっ それの具体的な形式・内容につ

案を、妥協的、

姑息的であるとし

が不平不

している。

示物をチェックする目的で、生 間切れで計画倒れになるのをおそ れて、生徒会の責任をもって掲示 限も真近かに迫っている現在、時

き上げもでてくるであろうと予想

いても、いたやない、ややな

今一度の反

「省を加え、広い視野を」いう認識に立たなければ本質的な

解決は得られないでしょう。」(物)

あるが、日常の振舞に一姦されるのを拒否しているのだと

がとられる時点で、執行部への突 る意見もあって、各クラスで議決

応終わって、次にそれらの内容 まず、校長先生の話を簡単にま 以上で、答辞の形式については一いく生徒に対して、人生における それはあの祝辞だけから考える時 経験者としてあたたかく生徒に励 ましをなされたものだと考える。

について述べたい

な人とがある。そして、ものご こともあるし、又善は悪ほど知 とというものは偶然うまくいく一実である。しかしそれとこれとは から柔観的な態度をとる事が望 られていないということもある 人間には楽観的な人と悲観的 あくまで別に考えたい ろん洛星における教育が消極的・ 閉鎖的な面をもっていることは事 極的なものではなかったのだ。む 今度の校長の祝辞を一人の教育

び在校生が快くうけとってほしい 者のあたたかい心として卒業生及

ました。

ラ クガ +

とめると、次のようになるであ一決して高田君の主張するような消 四、京都府教委 一、ナドウ校長代理 よく暴れてくれはった、 学内民主派の教師、 高三のお兄ちゃん。 生徒

まっ黒になるということが判明し、天候の良い日には、運動場に出て この新聞を鼻紙として使わない

している人のベストラノ 卒業式が無事に終わってホッ

で下さい。局員の献身的な種々の一片隅で話しをしているのだろうか

体操なるものをやり、気分をほぐれを人に知らせて協力を願うとい

次の授業にそなえ、整然と行うことでも、

られ、全校一勢に運動場にて中間 ならない。 目の間に二十分間の休憩時が設け

に事が成るということを考えては を人に強要することによって一巻

自分で正しいことでこ」せた▼あれから一年、まざに「諸

流れ、つくづく微動の時代を思わ

を張りつめた空気が 枯しの吹きぬける中 赤旗が立並び、木 の大学の時計台にも 騒がしかった。憧れ 昨年の冬は京都も

人のみかたによって|〇年代は "進歩と調和" の年で始

行無常」の感がする。バラ色の七

まったというマスコミの論調とは

ことは諸君将に理解していただき ることもよく知っています。けれ の因に改善されなければならない 創立以来十八年目になり、時代の 巫べてみたいと思います。 洛星も の制度上の各種問題が提起され、 」とは困難であり、先生方の総意 を 遷と共に学校生活に 於いても 改 かありここに一筆私なりの考えを 考えを書いてくれないかとの要望 学校社会の一人として改善する しなければならない点も多々あ

一若さを発散してくれればと思い、 残り状態、何故に運動場に出ずに 君等の昼食後に於ける教室内の居 集合についてみますと、現実諸 葉があてはまるのではないでしょ 々が集まって全体を形成している 次に許可制のことについて述べ

起すとすると名種の事故発生の際に事をいそぎ、他を誹謗するに急めにあるのか「教育とは何か」を と話し中で相当に理解される線を ると考えさされる。目下いろいろ思う。 等の話を聞き、教室での状態を見ることを 集合なるものを続けて来たのであ ことを憂い、且つ必要性を考えて」るに前述したごとく私達は個々一まい▼我々の学園を顧みると、大 に全体の秩序が破壊されてしまうであってはならないと思う。要す か。個人個人がパラバラに行動をの正しさにとらわれて、いたずらる現在、もう一度「大学は何のた るが、然し前述のように現実諸君 時に要望されることは何であろう に出た場合などの全体行動をする 災が起った場合、学校行事と校外

個々には

わずれてはならないとという感が強い。にもかかわらず 全体とのつながりがあば平穏無事な日々の一年であった

が学願を獲っていたことも否定で

言い様のない無力感や沈滞の風潮

それだけ問題の根は深いのではな きない。表面に現われないだけに

いだろうか▼教育のあり方につい

人で世に住んでいるのではなく、

きな動揺もなく、どちらかといえ

問い直してみるのも無駄ではある

実験の結果、この紙は鼎をかむにと考える時、私自身色々と考えさ。ことを考える時に「個は全体のた」応じて朝礼を持つことがよいので は堅すさ、かむと顔中がインクで、される所があります。少なくとも一めに、全体は個のためにと云う言はないかと思いますが、若し諸君 うか。すると一人々々が常に自分か、挨拶だけでもよいのではない れいろいろな個性を持った個人々。みで終るようなこともあったと思て考える時、教える者にとっては てみたい。学校社会には人それぞ一他の表彰のない時には単に挨拶の いますが、 いますが、 広

て特別委員会を組織し、掲示板一摩擦をさけょうとする配慮からで 消の方向へ向かうであろうと言明 ある。事実執行部は、委員会は学 時的に設けられるもので、漸次解 校側の懸念を緩和するために、一 上、本芦 すべき所は順次先生方と相談した 努力したい いうことが案外、気づいていない んなに恵まれた境遇にあるか、と 送れて将来の思い出になるように 一言述べて終わりたい。自分がど に皆が楽しい学園生活が

と思う。最後に諸君にる」といった割切り方をしたのは 指摘をしているので次にかかげて 大学の小針睍宏助教授が示唆深い 現在の情況を見通していた様で興 るのは当然ではないかと思う。 と言わざるを得ない▼戦前、山本 おくことにする。「教育における 味深い。最後に教育について京都 は即、その商品のブローカーであ 宣治が「知識は商品であり、教師 「人間教育」「情操教育」を掲げ

諸 君 前田 に 吉宣

たことがあるが、毎日のことでいる前に良く

なければならないと思う。ややも

考えて行動できる人で

些

使命を自覚し、行動す

力の考えていることを自

過去には追い出しなどもやってみの立ち場

次のような質問をしました。 ○検閲許可制は何のためにある 〇屋休みの集合はどういう意義 今回新聞局は、前田吉宣先生に があるのか

まったのは創立以来の習慣であっ

分で正しい すれば自分

と判断しがちで、それ

いる。そもそも昼食後の集合が始 ささか嫌になったことを記憶して

た。これまでは二時限目と三時限

り、補導部の公式見解ではありま 田先生に答えてもらったものであ なお、この質問は個人として前 ○朝礼はどんなときするのか

此の度新聞局の方から、学校内 |が整然と行動する時が失なわれる| た時に、指導と云う言葉を使いま|| 議を残したまま政治の季節の終焉 ものであるが、 った学校生活の一環であった。としとも出てくる。そのような点にしうらはらに「闘争」に関わってき れが廃止となるにあたって、全体 入室することを残し今日に至った 動がなされたのが他にみられなか」は自分が反省しなければならない ことが憂慮され昼食後に整列してすが、それに対しては素直に謙虚を告げて出発してしまった七〇年 学校での天災、

京が、正

しいと思うことでも、そ一て "正常化"が推し進められてい

て違ってくると思いまして大であったと思う。大学におい

見方によって、またんでいる我々に与えた影響は極め

立場によっ ているか、

と思う。何が正しく何がまちがっ。「での出来事が、大学を目指して学

に耳を傾けるのも必要ではないかということになろう▼一連の大学

ついて私達は教師の立場から考えた人々にとっては多くの挫折や抗

等の方で朝礼はかくあるべきだと かと云う声らしきものが聞かされ 最後に朝礼についてであります その時その時の必要に一勿論のこと、学ぶ者にとっても主 伝達、隣話、運動その 週間一回と予定はして

のでは、学生の方に拒絶反応が起 カリキュラムを一方通行的に流す 成立たないであろう。至上命令の 体性というものがなければ教育は

しかし、評議委員会では執行部|出たり不 人が多いと たに過ぎませんが、要するに改善
| 行なわれるならば偽善も甚だしい るならは考えてもよいと思う。 以上私の考えていることを述べ一る学校においてそのようなことが たことにも、すぐ不平が 帆をもらす人があります ちだと思う。だからち

て全面的な掲示板の自由化を求める才覚もでてこないと思う。現在 の境遇に対していつも感謝の心を一様なパターン認識をする同類を増 ややもすれば頭で理解はして|教育とは一種の生殖現象だと思う ようにしていただきた一強してゆくという意味で、ほくは 門を並べても、 よい知恵 心で直ぐに感じない人が のです。そこで学生が騒ぐのは強 教育を通じて同じ言語を話し同じ 対話とかいう言葉がありますが、

あなたは

人間。なのか

だ。それどころか世界中の人は皆 か「カッコイイ」とか言う人もい っているのをきいたからだ。これ これを認識しているのだろうか。 のだ。しかし、あなたは、本当に まえやないか」と思うだろう。そ なたはきっと「そんなことあたり を含いて、「やったぜベイビー」と るだろう。あるいは、「ニクイ共 **陸主義者め、殺してしまえ」と思** ん滅した」「……は傀儡軍に死者× 人間」なのだ。こう言うと、あ 私がいきなりこんなことを言い が「……して、敵〇〇名をせ

うだろう。こういう場合、私たち一フンサイ」のデモを見たとする。 べつに北京放送だけの話ではな う人もいるかもしれない。これは 戦争の
当事国ならどこでもそ 殺された人を「人間」として いるだろうか。ひょっとした いいかげんないい あなたはそれを、どういう気持でく。私たちの多くは、このメカニ ながめるだろうか。「なんや、ち」ズムにとりつかれて洛星中学には ではなくとも、問題はもっと身近 ゃちなデモやな」とか「長いデモ にある。あなたがどこかで「安保

その恐怖を、あなたはその時感じ で銃をかまえる前を歩かされる。 だ。自分が不幸にして京都にうま それは戦争にはつきものだと、あ が虐殺されたことを含いたとき、 り、それを多いとか少ないとかい いう事実をことさらに無視した れず、ソンミ村にうまれたらなん 殺されても、殺されたひとりのべ だろうか。百人殺されてもひとり なたは本当に、殺されたベトナム たかも当然のように考えたり、「百 抽象化し、「人間」が殺されたと は死んだ人を、「傀儡軍」として「いうように「量」に還元してしま「校」→ て考えただろうか。米兵がうしろ トナム人にとっては同じことなの 人のひとりひとりのことを考えた 極元して考えはしなかったか。あ 人か、多いなあ」などと「量」に 何もそんなに遠いベトナムの話
|大学」にはいるためには「いい高 一コ悪いのにデモなんかきたんだろこととは両立しない。ソンミ村の いるあの中年の人は、 そこにひとりひとりの「人間」が ろう。デモをやっている人は、ひ かしてデモに出てくるんだろう。 高校生はどうしてそんな危険をお 処分せよと言っているのに、あの う。あのおばあちゃんに「安保フ」事件に人間としての怒りを感じ、 うのではないか。 いることを見なくてはならない。 して総体として見るのではなく、 ってくるにちがいない。デモ隊とり、行動したりすることは厳禁で とりひとり何らかの決意をしてや 当然そういうことを考えるべきだ な?。文部省は政治活動をしたら ンサイ」の意味がわかってんのか 校」に、「いい高校」にはいるた 「いい会社」にはいるためには あるかもしれない。今まで一般に、 らないことになっていた。「いい 「いい大学」にはいらなければな一を感じる。 もっと卑近な例をあげる必要がのだ。私は、「人間として」何も あそこを歩いて 況に対して、 のがあなたのおかれている情況な あり、わき目もふらず「いい大学」 ものに対しても人間として感じた はすまないだろう。要するに、何 コースに疑問を感じたりしては 生が殺されても同様だ。ましてや 「勉強」がおろそかになる。岡大 ることと、あなたが「人間」である 社」のコースを無事に歩もうとす に向って適進しなければならない することができないこの現在の情 人間としての行動をおこしては たは「人間」なるか。 「いい幼稚園」→「いい会社」の 「勉強がおろそかになるどころで 最後にもういちど言おう。あな よいい大学」よいい会 「人間として」怒り

しきメカニズムははてしなく統 めには「いい中学」に……と。

かたはやめよう。きっと、私たち一やな。どこまで続くんやろ」とかし、「いい幼稚園」→「いい小学 悪いのだ。 間違っていたのだ。」と一いくのが退学処分にあたるもので 処分された者に押しつけ、その処 いてきにおいな。 ある。そこでは、仲間の間の規則

H えると言っても、 者が自分の行為を正しいと確信し う。」という意味である。今度の ら、反省する機会を与えてやろ 前の行為は間違っていたのだか っていないのだから何を反省すれ は、処分は処分された者にしてみ たといえる。それは、処分された とである。そして、もう一つは「お だぞ。」というみせしめにするこ んなことをしたなら処分されるん を強要し、他の者に対しても「こ 分の基準となった規則に従うこと れば学校側の弾圧だとぐらいにし ていた場合である。そんな時に に対して一つの強い問題提起をし 「寮問題」はその処分というもの 本人が悪いと思

問題の表面の部分は処分制度に いう意味を持つのだろうか。ある

Na

8 2

の面を持っている。一つは、

処分というものはその中に二つ

にあたり、仲間の間のやり方やそ

することによって「お前の行為は

「今のままではだめだ。何とかし

何ものかを得るに値する環境と言

合、それは本当に我々がそこから

他校の校則について論じるよう 寮問題」と一口に言っても、

成員がその仲間の間の規則(とり ばいいのだろうか。処分とは本 一つの仲間において、その構

合いなどをしていて処分された。 寮則が悪いとか、舎監の態度が思 がそれをどうとらえたかという点 と処分前後の事柄にしばって、僕 則がどのように行なわれていたか について述べたいと思います。 いとか言ってみても、果たして寮

星

が、その仲間の中にある秩序を守い。それでこそ処分というもの 則や価値体系は、将来にわたって り、さらに問題なのはそれらの規 る為に役立つと言える。ところ テムが欠如しているという点であ は関係のない所で決定されてお 度の基準となっている規則やそののまで押さえつけられてしまう可 日以後の処分撤回を目的とした寮 る。ここにおいて、我々は9月30 値体系の中に反映させていくシス り我々の価値体系をその処分の価 容易に変えられそうもない、つま 背景にある価値体系は全く我々と (とりきめ)はその仲間の合意に

確立である。それがなぜ必要かとく。我々は現在教科の勉強もさる ある学校の価値体系に我々の価値 の基準となる規則や、その基礎で 問題を洛星における民主化斗争と してとらえなければならない。処 いうと、今のままでは我々を包むことながら、より個人の内面に近 雕れてもっと一般的な洛星の中に一 対に、彼らが処分されることだっ 法によっては、我々の意志とは反 と我々が認めたとしても、その方 ある体質というものに向かってゆ ここで、問題は「処分制度」を なわち洛星というものを見た場 つくられていくのではないだろ の環境との関連の中で自分自身が て考える。そして、最も人間を見 う。人間は、海や山や空などを見 て考える。そして、その自分以外 そこで、我々のまわりの環境す

政治教育 について

ょう。そしてそれは政治に対する

イデオロギーを自分の頭に注ぎこ す。しかし、彼らは一体いかなる いて主張されるのが見うけられま ょうか?松らく、ある種の政治的 形の政治教育を求めているのでし 求がその基礎に横たわっているの ろ顕在的にしろ望まれているとい 「政治を正したい。」といった欲

が現実にどうあるのかといったこ はないでしょう。それは何も自民 についても同様でしょう。彼らの 勿論、マルクス主義のようなもの して安保を考えるなら、安保に対 を言うのでしょう。つまり一例と 的事実について教えてもらうこと んでもらうことを望んでいるので とを教えて欲しいのでしょう。そ ないということではなくて、安保 してはこう行動をしなければなら 言う政治教育というのは多分政治 党のとか社会党のとかいったのは してその目的とするところは政治 な政治を理想とするか、あるいは られた問題であります。みんながなく、どうすれば最終的目標にも つかはあくまで個人の主観に委ねものが実はイデオロギー闘争では きるものかどうか甚だ疑問です。 | モなり集会なりの形で働きかける| なくなればいいという最終的価値 の高校生が果たしてその問題にデーれている状態です。即ち、戦争が て教えるだけで、あくる日からそでき、むしろ人々の願いが裏切ら んなものを高校生の前に出してき のです。それは何も高校生にとっ に足るだけの考えをもつことがでは一致しながらも、その方法を社 前の政治学者にとってもです。そ てだけではなく大人は勿論、 同じように平等な生活をするよう 最終的にどういう政治的価値をも しかし政治というのは複雑なも 一人一満足に与えられるような状態には

基づいてつくられなければならな「なくては。」と思って行動した時一会的動物だと言われるが、それは「えるだろうか。実際に洛星のどと」てたつ基礎に社会学などから疑問 について関心をもって行動する人一各人が能力に応じて社会的地位、 à

が、現在我が校においては処分制ることによって、その運動をのもが、社会的な内面、つまり社会的が今の各星について不満を持って しても、その方法によっては、そ一生きていけないということだけで一かい点を論じるのは本旨ではない に、我々がその行動に賛成したと一単に人間が社会をつくらなければ 性について考えることなど思いも か、男であるのか、女であるのか、 るだろうか。自分が人間であるの れたなら、何を考えることが出来 わち、人間はただ一人コンクリー れていくということである。すな な視野を持つことによって確立さ はなくて、人間であるということので省略するが、少なくない人達 よらぬこととなってしまうだろ もわからない。まして自分の人間 森であるのか、山であるのか、何 トで固められた部屋に閉じ込めら が悪いのかというととについて細 ないまま放置されておいて良いも いると思う。その不満は解決され 味を持っているだけに、今のよう ように我々の人間形成に大きな意 包む洛星という環境が上に述べた も出来ないままに硬直化していて にも影響されず、有効な問題提起 に変化もなく、何ら学校外の問題

柔軟な思考の出来る人間にしてやしたり、デモを民主主義の発展の としての教育的な秩序維持の責任 止」などについて先生方は、教師 ろうという思いやりもあって、必為に必要だと説く意見もある。そ に片よった人間になることを防ぎとがない)、現実には暴力を肯定 だけでなく、我々が末熟さのゆえ一たりしたことを洛星では聞いたこ 「検関制度」や「政治活動の禁

定的な態度を示すということは、

度を示した。そして、学校側が否

意味を持った必要なものであった 今度のように、その運動が重要な 終止「正規のルートを通じて話し

今度の寮問題においても学校側は 能性があるからである。例えば、 の目ざすものに関係なく処分され一

合いを行なえ。」などと言って、

のだろうか。そして、また我々をいて硬度しているのもまた事実な「化に対して何ら対応出来ないまま」為に、文化、真理の代理者として 対象が人間であったことが考えら

しかし、その柔軟な思考の出来る一の形態そのものへの疑問もあらわ 人間を造るはずの学校が、我々の 般的な中立的な意見の他に、一般 れてきている。そんな時に一人洛 るが、公に発表されたり発言され を持った人を個人的には知ってい い。なぜなら、僕はその種の意見 いとか考えるが(実際はそう考え 暴力はダメだとか、デモは良くな いろある。例えば、僕は何気なく には異端とされている意見がいろ のだ。先生のすすめておられる一 るように仕込まれたのかもしれな 今ある民主主義 る。それを生徒の学習権という側 を生徒にもたせるという意味であ 生は何故に僕らを教え、そして教 は先生方に一任されて我々の意見 ている。そして、その環境の維持 生徒の色々な意見を知りたいとい 根づかせ、生かし、 いと思う。真理の代理者とは、真理 るということに基づくより他にな それは、教師が真理の代理者であ を持つのか。結論をさきに言えば 育に必要な環境を維持する教育権 先 れた。 る。しか だから、 なさい。 我々生徒の前に立ちあらわれるこ の為です。 造り上げていく権利を有するし、 照り返しだと言うことが出来る。 とをしているのだと言ってよく、 我々は今のような慢性的にってしまった洛星が、今の沈滞よ 」などということを言わ、創立時の創造の意欲をもはや失な これているような状態に

うことです。即ち、「デモに出た」た問題は、2+2=3、が誤り 間になりたいということなのでし、評価を与えられるような政治を理 判断の基準をもち得ぬ以上、各人 に委ねられた問題です。 教義に従った生活を皆がするよう 想的なものとするか、キリストの になる政治を理想とするかと言っ ることは相手が人間である以上道一 し、その成育は限害されやすか 上、資料も十分供給されません っては有難くない場合が多い以 徳的問題をひきおこします。同時 ったというのが大きなものでし る以上、又その知識は権力者にと す。僕自信 くにせよ、 にしても逆 んでいる以 して、こう

った社会科学に委ねられるべき っとも有効にたどりつけるかとい いと多くの人が願いながら、核が ありません。戦争がなくなればい デオロギー闘争といわれる多くの 会科学が与えられぬ状態です。イ な社会を実現できるかといった客 観的問題に社会科学はまだ解答を 問題であることが多いのが現状 かし、どうすれば各人が平等 まってすまない面を政治は備えて 題と深く関連しており、 合でされ、影響を僕らに与える問 いるからヤッカイです。つまり、 そうです。しかし、そういってし はできるだけ介入しない方が良さ 科学が未発達である関係上政治に の政治の二つの面、即ち複雑で手 さればならなくなるからです。こ うとすると、どうしても僕らに影 らに影響を与える問題に対処しよ 又僕らに直接に影響を与えない場 領などその最たるものでしょう。 影響を与えずにはおかないという 接的にしろ直接的にしろ、僕らに におえないものであるから放って とにかく政治が複雑でかつ社会 もしも僕 ションについての研究のように度 ドやロジャースらのコミュニケー よ、あるい り方として 高校過程

発達をみておりますが、そのよっ マクロ的世界までその手を伸ばそ りにも貧弱といわねばなりませ 自然科学が月に人類の足跡を残 もっとも経済学などは高度な 心臓移植を行ない、原子や分 政治は決して僕らを放っておいて 矛盾の中に僕らは立っているので おいた方が良いという点と同時に はくれないという点、この二つの

れます。つまり、その為に実験をす一わけです。社会科学がはやく発展 に比べて貧弱である理由として、 このように社会科学が自然科学 することを許さないのです。よく す。政治は僕らにモンロー宣言を の意見は後者のみを強調している 強調したものであり、過激な学生

方が得策だと思うのです。

ているだけである。

いての意志決定を迫られるわけでには、漸く教皇権も凋落のきざし 社会科学の考え方といったものををもってする時ほど、喜び勇ん はないかということです。むしろセーの中の「人間は、宗教的信念 の現実を教えても意味がないので、女狩り業者も出現したが) 提出してみようと思います。まで「て疑わぬ人々の手でなされたとい ついての簡単な試案というものを一在とその正義の掃滅の使命を信じ いということです。 するにせよ、この点を考えてほし、思惑とは異なった次元で「魔女狩 の面をとちらも見逃さないでほし ることはできません。ただどんな」も急速に荒廃に陥りつつあった教 を打ってもらいたいものです。し 政治教育をするにせよしないにせ いということです。そして学校も 立場をとるにせよこの政治の二つ かしながら僕達は現実に社会に住 ただ、以下僕なりに政治教育に一のは、それが悪魔および魔女の存 においては、あまり政治 とにかくその矛盾につ はいかなる政治教育を 上、無関心を決めこれ に政治に飛びこんでい した状態に早く終止符 る 状況に追い込んだ背景が考えられ

法」のような方法論を利用するのるように「検閲」があり、「政治 のを使うのも一つの方法ですしデ はないけれども、その方法を実際 の研究の中で端的に示しているも らかに社会科学的思考力を養った。ような考えがあるのも事実であ な政治的事実をつめこむよりは明 そしてその底には校長の言われた ュヴェルジェの「社会科学の諸方 いづれにせよ、無秩序分制度」や「生徒心得」がある。 えも知りたいと思っている。しか ガマンできないし、より新鮮な考 (岩波新書刊)

も一つの方法でしょう。

かし、

なら他のデモに行ける学校に行きかなければならないことであり、して「デモに行けないことに不満我々が今後にわたって追求してい 当に学び生活するに値する環境を一争は「処分制度」に端的にあらわ 我々は高校に上がる時校長から。有効なシステムを探究するという またをうしていこうと思ってい。に反映されない今の状態に対し 教師の教育権とは生徒の学習権の一全く関係のない所で決められた規 は出て行きなざい。それがあなた。きな意味をもっていたと言える。 「この学校に不満を持っている人」各星民主化の運動として本当に大 し、それにもかかわらず、 我々には先生と共に、本に対して行なわれた祭処分撤回斗だと言うことが出来る。則に基いて、一方的にされた処分 」と言って、その例ととして、その民主化ということは れているように我々の意見が本当 て、我々の意見を反映させていく このような状況の中で、我々と

新 刊

魔女狩り」

ピの問題に解答を与え|を見せる中世末において、内から を異端として断罪せざるを得ない 威に対する危惧が、相容れぬもの 会の、自らの普遍であるべき権 「魔女狩り(異端裁判と検刑)」 (森島恒雄著)

接社会科学の方法を書いたもので的な問題をなげかけている。 教えた方が好ましいでしょう。やしで、徹底的に悪を行なうことはな しは、デュルケームのい」という言葉を引いている。 だとかラザースフェル それに関わっていく、又関わらさ れていく個人のあり方という今日 的な事象を通じて、 ・ホプキンスのような便乗的な魔 り」を一層、陰惨に印象づけるも 著者は、このような教会内部の 本書は「魔女狩り」という象徴 時代の狂気と

る。そして、それらは我々が望む し、また洛星には、それをおさえ 環境と先生方の望んでおられる環 活動の禁止」があり、さらに「処 境の間に壁をつくり、いたずらに その二つの間のつながりを妨げ

長 に な つ T

何かの壁にじゃまされていると感 思いつくことを書いていきたいと の一つが検閲制なのです。 でしょう。この壁なる物の具体物 制)を正当化しています。 満を感じられることでしょう。自 批判的な活動をしようとした時、 れていると実感したからだ。」と。 一十分 はずです。真実を、思った事を発 と、当然現在の社会に完全に満足 べての人を指します。)そうする とは、広い意味で、学校を出たす よりベターな社会をつくることに 即ち、多くの知識人を持って、今一う意味で「生徒の自主管理による ーションを通じさせようとしてど 少しでも多くの人と、コミュニケ す。理解力、判断力の弱い僕達が、 そしてそれをだれかに聞かせたい す。でも、僕達はものを思います。 権利を侵しているのです。僕達は 当化されます。つまり、これらの 側(許可制)は、ここにおいて不 訴える、聞いてほしいものがある あるのです。(この場合の知識人 こが悪いのでしょうか。 教育は、基本的にはその目的 社会の改善に持っています。 判断力は弱いで 九

聞

は人間の根元的な欲求といっても は学校の許可による。」というわ 動には、学校が指導し、その行動 自主性なり責任感なりを身につけ 強、自主的な運動、自主的な活動、 さしつかえありません。僕達はも にいと願っています。自主的な勉 さて、僕達は人に訴えたい事が 存在は、大いに問題にされるべき と、真の教育ではないと言っても 善するかということを考える人間 会の矛盾を批判し、これをどう改 この洛星という機構自体に人間の す。枝葉末節な不満は別にしても、 事は、大いに問題があるわけで ました、壁の存在を感じない、つ を生み出すはずです。そうでない まり不満のない人間がいるという

います。 て、がんばっていきたいと思って と確認しました。書記長として、 今、種々の活動を通じて、それを いうわけか)政治意識に目覚めま る事なのですよ。) 生徒会幹部の一員として、当面、 さまたげているものを、はっきり に、多大な疑問を持ちました。 在社会における洛星の位置づけ を読むが早いか、洛星の機構、現 した私は、政治・社会に関する本 -付録 幼くして(どう

るのです。即ち、僕達は自主的に「非は彼らにあるのでしょうか。 出されるのでしょうか。またその一なってしもてすんまへん。 ら、理論が先走り、 とっても)しようもない文章に 気楽に読んで下さいと書きなが かなり(いや

之 なり多くの学校が真の教育をして 真の教育をしていないといえます

ではありません(それはそれで、 とやるのが不満なのです。理解 っていたのでした。僕は何も、生 判が検閲制(許可制)にひっかか 掲示板の設置」は大いに意義のあ すべきだと思うのです。 むしろ必要な事でしょう。)しか 徒の言動をとやかく言うのは不満 この洛星自体に対する不満や、批 然化して、その上で論理的に反論 動、それならそれで、ちゃんと公 し、それを暗黙的に、当事者だけ (そうい ての教師の立場から、当面、体験 を通じて教育に従事する職業とし 学校で「美術」というようなもの あろうと考えます。

てみたいと思います 嵐は、次第に高校にまでエスカレ 幸、全国を

襲った

学園紛争の し、ぼくの勤務する学校も多

で、この状況を冷静に捉え、われ みられるようになっていく一方 にともなう頽廃的な傾向が顕著に 生まれてくる新しい事態に現場の 少なりの影響を受け、あいついで

で語るでい 日の確信が、以外にもあっさりと一役者というやつは何よりも顔が大 絡まる社会的な連帯によって保障りやってきてこんな話をしてくれ あると自負し、だからこそ今日の 崩壊していくことを認めたのは、 糧と明日の希望を、ぼくの四囲に ではなかっただろうと思います。 くの職業としての教師を民主的で なくちゃあ。

作業でさえ、自分の手を汚すこと一化し形式化を生んできます。幸福 ってくるであろう崩壊の予感を、 失なっていきます。 あなたはいま鋭敏な感覚で受止 であろうと思われる関係であるが 能的な防禦の姿勢を生み、勇気を一く原因をつくり、加えて質問題が ちとの間に大きく意志の疎通を欠的に語り、居合わせた人達を笑い って起ってくると、学年を区切 い役柄をこなしながら十数年も活

(3)

五年目の巻が訪れようとしていま

寛大で根強く、しかも豊か

形づくり、信頼の基礎として定着

Nさん、ぼく塗の親しい交友に 手がかりとして

ところで、話さなくても解りあ

に、ぼくを見守ってきたあなたし、とこに久しい歳月がそそがれ

め、警鐘を打ち、何よりもあなた

合には、教室に戻ったとき子でに一きたこの若い俳優を、ぼく達は舞

8 2 Na

中の欺瞞を一つの

って話さなくても解りあえる幸福

によって数多い体験を共有し、従

一等ない

一番に続く末来を含り開こうとしてもなければ、教師と生徒にはこれ | 自身に厳しい批判をはく達の関係| 断絶しか残されていないことに気| 台でしばしばみかけもしてきまし| 示唆的な言辞を、それまでの彼の| という授業の特殊性から、 に持込むととによって、五年目の一づいたわけです。 はじめからなに た。 そのひとが、 自嘲的ではある |話題に裏付けて背づいてい まし 日頃にはなく不孫なほどに響く、明待がある。しかし一度つくった

から結ばれるであろう交流の甘い

やむしろその非は学校にあり、は一

やしにしなければならない貴務で、て、人格の一部を潰しあうのでは「断され、組織や通常の急務とうら それゆえにこそぼくたちがいま、 するこの「何か」を告発し、根絶」このとき、妥協という方法によっ 部と、ぼく達の彼岸にあって癒着に残されるばかりです。ぼく達は いるぼくの課題は、ぼく自身の内 告発しようとしていました。 **娵着しているであろう「何か」をるが、回復を意図する両者の姿勢」を喪失します。何のことはない事** らに拡大された連帯の中で捉え、 個人的な問題としてではなく、さニケーションの不足だ、会話の機 き、温めてきた交友を、ぼく達ののになってきます。生徒はコミュ いた昨晩のあなたは、ぼく達が築と教師の立場はとても難かしいも 言葉で、威丈高に勇気を鼓舞して いま、あなたに問いつめられて ぼくは、いま 勢の対決を基礎に、厳しい収斂をしていきます 主化とは無縁の教育が混乱のまま れるとき、事態は一層複雑化し民 要求にのって断絶を埋めようとす 会をつくれと要求し、教師はこの 空目に全体の不信がこうじてくる に全く異った内容と方法が用意さ

て複雑に錯操し、

しつつある問題を手がかりに考え一つの日か真に自由は獲得され、創する柔軟な姿勢が弱いとととあわ の方途を求めようとするなら、い 経で辿りつく場にこの事態の解決 げられることになるでしょう。

われの真の教育を健康に回復しよ、次第に口の周辺が麻痺し、顔は石 壊的な発想と行為が生まれ、それどうしても左の方へいかないのでな教師集団と、現実から遠くへだの倫理感に非を鳴らしていた一人 た。そして、この混乱に乗じて破ていたら、右の方に入っためしが一険性を持っています。頑迷で固陋 されていきました。 うとする試みもまた意欲的に繰返にも左にも動かなくなり、ほくは ーッと口の端からもれ、それから 起点とするか 「ぼくは去年公演の最中に顔が 何を再出発の

一学期末の最も大切な時期を長期に、演劇というものがどれ程あてになる幸運に恵まれてきました。 されているのだと信じていましました。Yさんはまた新劇の将来|Brecht 1898—1956 ドイック|起り、 亘って空自にしてしまい、生徒たらないかというようなことを自嘲 た。ところが去年七月、ぼくは突や新劇人の政治姿勢等についてく 数多い教師の中でひとりぼくだけ。芝居のしようがない。しかしまあ こうした現場の空気の中で、昨寝込んでからぼくは考えました。 なんという因果な商売だ。 ったくなく話題をすすめながら、 事だ。こいつが使えないことには んが昨晩ばく達の会合にひょっと れからもうちょっと顔を大事にし 舞台を休む羽目になったのです。 あなたの友人である俳優のYさ。ひとの素朴で健康な人生の回帰が一感にくちびるをかみしめていまし 俺はと く生活を求め、テレビのコマーシダの権利を保存します。級友の支 の上に、実感として顔が普通に動 あるように思われます。 た気持のうらには、芸術家として ないいまの生活をあっさり否定し され、充分に舞台の練習さえできに乗らない教師を認め、彼は自 ャルや、商業映画の出稼ぎに忙殺 「ぼくは昔、プレヒト

持の薄さと、やくざまがいの恐喝

らこの権利を放棄したのです。は

授業総討論というべきものを組ん

を示す資料と共に生徒に配布し、

れまでやってきた過去の授業内容

です。

みれば、

た "公害"

接触の場を持っていないぼくの場の公演で、国際的な経験もつんでからなくなっていくのです。」 躍し、ソビエトを始めとする各国です。ぼくは正直なところ段々わでとれから制作される作品の構想 日本の新劇界の第一線で、手堅形で演じられ、どういう受け止めたり、必要に応じて図書館で調査 ぼくはYさんが別れ際に残したとも認めています。それは「美術」ている内面の裏藤は、 いまの日本でとれがどういうあって、生徒達が自由に写生にで について友人と相談するというと一裂であるが、ここでA若がかかえ をしたり、場合によっては教室外 M君は、 このレポートの作者A

ぼく連高校

さで語りかける言葉を、ぼくは感 がかなり腹を割った正直さと卒直た。 われわれの社会のやりきれなく 授業総討論

潔な日常の思考がいきおい観念化た。ところが彼は、開き直って豪です。ですからエスケープといっ し、細分化された発想によって判の全てを認めません。との中での度、放課後にさしかかり、高里の 化するとき、ほく達が打開しなけ 実が、実在から遊離した思考とし 活の場に持ち込まれてくると、簡 ような形で表面化し、自分達の生一験監督をしていたぼくは、ある生一獲得してきた生徒達によって支持 ればならない局面が個別に解体 なるような矛盾が学園紛争という した論争の渦の中でもまれ、実体 難解な論理に転一認めていません。この矛盾に充ち カンニング行為は、むしろ体制に一て君が教室に入ってきて「勉強と 徒のカンニング行為を摘発しましされる授業を可能にしてきたわけ させられているこの学校の教育くは怒鳴り散らしていました。丁 た教育政策によって支配的に成立ープ者と思われる生徒をあげ、ぼ ません。従って日本の教育政策をれようによってはどうにでもなる 然と言い放ったのです。 二学明末、高皿のある教室で試 「ぼくは日本の体制を認めてい」はきわめて難しく生徒達の言い逃

す。変だなと思って茶を飲みましたっている風俗化された思想の情だっただけに、ぼくは大いに憤慨 造的に民主化された学園が築きのせて、学生や生徒が生活の体験に一の集会で、級友達の強い抗撃に出 た。すると飲んだはずの茶がダア一報性は、この時点で大きく解離したものです。犯罪性を微塵も認 動かなくなりました。めしを食っ|思想を風俗化して教室に持込む危|斗争の渦中におり、彼もまたこの 師の側に変革しつつ前進しようと んが芝居なんてそもそも当てになする意味を内包するものなら、彼 し、深刻に相剋します。 考自体が特に未分化であるため」め試験官の所へどさ回りしたので 加えて高校生の場合には、その思一日から父親を同行して担任をはじ らないものだという逆説的な述懐 || 一に陥りやすいということです。 | やってきて謝罪意志を表明し、翌 た。レポートは、エスケープがよ 者しく欠けることから観念的な弊」あうと、彼は数分後にぼくの所へ「見解をレポートにまとめてきいう 顔が動かなくなった俳優のYさるとしても、それが現体制に抗議復であろうと示唆していました。 学園紛争の特徴的な欠陥は、教 時代の風潮に迎合しやすく、 | 斗争に熱心に参加し、ぼく達教師| ち、体制と教育と、教師個人と、 す。折しも学校は生徒達による寮ノニング事件の当人が開き直った 拡大し社会的に訴えるプロパガン は自ら処分を受け、この問題を ますが、反省の思慮を迫られると一れがエスケープをした四人の生徒 とは迷惑です。 めない不正行為がよしんば成立す ところが、この発言が続く教室なったわげです。一人を除いて、 の非によってわれわれの不幸は牛 達の要求として捉え、三学期にな するのはコミニュケーションの回 家庭と……彼を囲むあらゆる環境 本的に認めつつも、先に高Ⅲのカ くないことであるということを基 他の生徒達はこのテーマで卒直な に与えられるレポートのテーマと ってこれを印刷し、ぼく自身がこ ぼくはこれを教室全体にある生徒 まれてきたのであり、これを解決 理由に重復して共通する内容を持

す受験を

今年は

れから機度となくこの作品を演ずりました。で存じのように高一美 トを演ずることにかなり懐疑的で、室内の動向も簡単に掌握できるとと、批判するものによって数多い 等人 : 蓋古州) に傾倒し、 をエスケープ者が続出することにな 思想と政治を厳しく体験してきた。をみる思いで彼と対峙し、苦い実 しかし、いまのぼくは、ブレヒの実習授業ですから、生徒達の教 くは自分達のしてきた教育の結果 似たようなことはその後頻繁に 同時にぼくの授業からも 犯罪性をかかえ、こうした生徒法 のレポートの内容を擁護するもの らない、 い。同じ理由で教室に居残り、漫 責任も同時に追及されなければな とからこの討論ははじめられ、こ の発生を不断に許していた教師の 生徒のみがエスケープ者ではな

ライバー

みますと、

そとで、

れることがそのほとんどです。

エゴイズ

(Bert

は営利を 出されて は変通 ように、 が、こと 資本主義社会においては、企業 の原因のようです。(もちろん 考えると、 車を造るのであればいいのです 量産といっても、安全性の高い 得るために経営してい 来たものであり、また 明の発達の途上で生み うわけです。)自動車 では去年話題になった いわゆる "大陥車"の 自動車の量産が最大

す。だからこそ、これを獲得して

き、A君は自ら被管理者に陥っ

一この「何か」という問いかけを放

決しきれずに「何か」という形で

て教育の管理主義が進行すると

ようでした。

A着の「何か」は、ぼく自身の

可能なことなのですが、ここ六年

えている問題性があると共感を示して発想と表現を越えて、高校生

し、

K

君は

苛酷な

受験

体制

にあっ

らしい

本質

究明の

意志である

かの

始めて

生が不時の意志として共通にかか

それはこのレボートのネガティ

の間に、生徒達が要求し序々に

なく、本質を究明しようとする姿はらに事態の収拾を困難なものに「抗議する意味があります。ですかは一人でするものか」という提案 ら、カンニング行為は卒直に認めを生徒達に投げかけ、 秩序は厳然として保たれ、これを きた生徒遠によって、この授業の わけです。にもかかわらずエスケ ても、これを一概に断定すること 従って、と 「何か、教育とは何か、勉強とは何」せん。 それはことにとどまって教 S君は、はく達の自由は獲得した ていく誤謬を犯しているのではな 内部に癒着している 「何か」と重 は.....e 返していることでした。社会とは一また解答を用意しなければなりま か、自由と 執ようにいくつもの「何か」を繰 つくっていると述懐したのです。 意識が、悪しき個人主義の基盤を一着する「何か」とは、ぼく達が解 崩壊するものであり、虚弱な生活一であり、ぼく達の彼岸にあって癒 体験に根ざれ いかと批判しました。そしてまた一復します。ぼく遠の中の欺瞞は、 そこで改めて気づいたことは、 ぼくはこの討論の中で、 繰返 放棄しようとする巨大な権力志向 c レポートを読んでいま一ではないかと思います。 は、人間とは、個人と一職を続けるという決意に外ならな していないために弱く一って解決にかえるみせかけの思考

一弾劾するばく達の関係に、ばくも

Nさん、あなたが勇気を込めて

ちよっと ヒトコト

す。そして、金でかたがつく問 いとも 簡単に 奪われて いきま 故による死者数が史上最高とな 新聞を開いてみて下さい。新聞の自動車が販売されており、こ 多くは "交通事故" であり、ま えないと言う人は、家へ帰って さい。何が見えますか。何も見 今。交通事故』を例にとってて、いくら注意していても事故 (社会面)に載っている記事の 尊いはずの人間の命が 意識しだすとろです。 一九七〇年。僕たち(筆ずの人間を余りに軽視しすぎ などです。 目を社会に転じて下 文明の正しい発展のためである に会うといわれ、毎年、交通事 人は持っているといわれるまで る異常な、社会になっているの て、市場には企業によって大量 とは言い難いでしょう。 た、いわゆる"もうけ主義"は が、しかし社会の主役であるは の狭い日本の国土に、七人に一 てしきえばそうかもしれません るのですからしかたないといっ に普及しているのです。そし ともかく、現代社会におい

支払われず泣き寝いりを強いら、僕たちは、異常を正常に変える すずめの涙ほどかあるいは全く 題ではありませんが、賠償金は 個人のモラルの欠除・ 自動車産業の量産・ド 会等です。しかしよく 法律(特に刑法)の 事故の原因を考えて り、常に社会に関心を持ち、社 れらに対応していけるだけの人 努力を怠ってはならないのであ はないでしょうか。 間にならなければいけないので 会の動向を敏感に受け取り、そ とのような社会に生きている Ŷ

希望者は

中学 4 階局室ま

前田

「はでやから」といってし

分したことはあるんですから

「はでやから」といって如

がむずかしくてね。皆動質の

談しても非常に基準というの たということを、一人一人相

たことなんであるかや。お前

遅刻、無欠席で皆動という。

運があるわけですな。

全然供 場合やったらキチンとした根

ら勝手なことを書くなや。そ

んな事実無根のようなことを

(ちょっと怒る。)

う人を評価する場合には非常

に主観的なものがはいるわけ

そういうことに対し

とができますけどね。そうい

で歩いていた場合には先生と

もし今度そんなはでな服

次のようなインタビューを行ない の生徒心得の一部改正について、 の日の明礼で示された来年度から

記者次に、質がなくなったわけ

だから非常にむずかしいとこ。記者はは、どうも

が一番よう知ってるわね。我 日中教室におったらあんたら

じゃないわね。まる君達は一

から不、都合の悪い所はお互 やっぱり皆が読んで知るんや

を会わす……。

それがすべて

々はたまにきて評価するわけ

まか。そういうととや。

んとネ、ひとつの指導といい いに不話し合って直してゆか

CB

61 10 15 15

記者服が学校以外の時は私服

なんでござる。 こんにちは、

前田 どういう教育方針?

るものですか。

けですけど、もしも、 でいいということになったわ

あまり

いう点を反省して、あるいは

時代の変化に適応するのか

うん、結局ね、僕らが考え

赤の服に赤のズボンとか)だ にも見た目にはで(倒えば、

った場合は、先生としては確

記者いや僕は知りません。

見方とね、違うわけでしょ。

しょう。

ね。結局我々の見方と君達の あれやったら全然意味ないし

記者いや、しかし許可制度とい

うのは知るだけではないんで

るけど、授業中一時間ぐらい 記者 知るだけでは……

なもんでね。あとは郊外で顔前田

知ってね。そうそう、そら

我々教師の立場で評価してい前田フン

う?したんでしょう?

ワハハとわらってみたりね。

かるでしょ。名前呼ばれたら

は終業式やら実際見とってわ

とに関しては、あんたら自体

配者
それから、制服をもう少

得ないという事でしょ。違い

とかにするお考えはないので

安いものとか、能率的なもの

記者よくわかりました。

前田許した以上仕方がないで

わけですか?

しては、処分という形はない

て賞を与えるということは、

許可制とか、そういう問題に

クラブ活動に関して

てあ

思う。

イ、入っている。

しょう

前田
それはあなた自身の良慈

であると同時に、お父さんと お母さんの良識に待たざるを

独占インクビュ

前田先生に聞く

別田ないですね。安いものと うるあのう生徒会で、この間 ど。(閩)これで精一杯と漁 して言うたはるのかしらんは いうのはあんたら何を基準に オーベンさんが話したのと歌

は補導部室に前田先生を訪れ、そ 別田 はあそうか。してるはずで ろはおさえておく。 れども、とりあえず今のとこ いう服のことに関してね…、 そこまで学校は、君達のそう 段が。)上がっているんだけ これは世間一般的なことだけ ど、すえおきという状態です すわ。本当は二割(制服の値

記者要するに以前の質のどう どういう教育方針の違いによ ですけれど、それは以前との 記者 つまり 客観的な規律がな ろがあるわけでしょ。

記者
それから、今日の発表では 前田 そう、まあそういうことで 者の心を強く捉えて放さない、 層を持っている。特に現在の若 った。今でもまだ、根強い支持 すな、はっきりいうたら。 一時、全国がフォーク・ソン をうたい、プロダクションにと

2

勉強と両立すると思いま

計 D C

それがマスコミにのった時、す

つ伝達性が、満たされるのでは 用することによってのみ歌の持

ないだろうか。実際、 彼らがマスコミに採り上げられ

我々は、

ら生まれて来たのであるから、

何かを持っているようだ。 フォーク・ソングの出現によ き使われるというような歌手の ング歌手は、独自の姿勢を保っ 矛盾を、率直に、又ユーモラス て歌をうたうのである。社会の 現状に対抗して、フォーク・ソ 楽

があったわけでしょう。 何らかのそれに対応する処態 実に処罰したわけでしょう。

そうですか?

そうでしょ。だれがどない

で、規準というのがむずか 評価するわけでしょう。ほど ているのはね、人間が人間を

いわけだ。はっきりいうたら

そうですか。 なかったんですか?

ら不満があった。意味のない歌 生命が決ってしまうかのよう その歌とその歌をうたう歌手の な、既成の歌謡曲にはいぜんか 宣伝に力を入れるかどうかで、 たのだと言えよう。マスコミが 方に挑戦するために現われてき って、従来の歌のあり方が問わ グはもともと、既成の歌のあり れた、あるいはフォーク・ソン しく登場するようになった。 た人達がスター的存在になり、 成組織、反マス=コミの考えか テレビ・ラジオにも、はなばな て、岡林信康や高石友也といっ ここで、本来彼らの歌は反既

時 フォー クソング

きただろうか。人々に訴える方

決しようとする人達に何がで

社会の矛盾に、力でもって解

口、

出していた岡林に対する、風当

うことができた。

に、反マス=コミを正面に打ち

たからこそ、彼らの歌を知り歌

のだという声がでてきた。特 でに彼らの生命は、失われた

に、歌うことのできる歌手とし 逃れるように姿を消してしま たりは強かったはずである。そ してついに、彼はマスコミから の胸に強くつきささる真実の歌 のほうが、効果的であるに違い 法として、ゲバ棒よりも、

難することが出来るだろうか、 いまの時点では、マスコミを利 しかし、彼の行動を我々は非 「うた」の出現を待ち望んでい われわれは今こそ、本当の

ハ、無答

C D

B

B

ケートを行ないました。高ーの諸

あこの際、それならやめた方記者 そういう 点についてはど でこういうふうに踏み切った がいいのではないかというの す。だからそういうお互いに を持ちながら、ああいうもの わけですわ。もうみんな疑問 ってきたということでね。ま 鱈を持ちながら、今までや 前から疑問があったわけで 前田
それは又、先生方と話し合 前田はい、全然触れておりま いきして…… すか? ういうふうに考えておられま 全然触れられなかったわけで
の
クラブに入っていますか。

at D C B

79 15 20 24 20

るじゃない、そうジャない? ちゅうことを知っておかんと はいかんということを言うて いかん。そりゃ、やっぱり教 も、別段これはいかん、あれ 師として知っておく必要があ れが生徒が何を考えているか ないでしょ。一通り、われわ しかし許可制度の場合で

しょ。まあ、ああいう質のた

まおうと、その点おわかりで

なことだし、この際やめてし

そういうものが非常に不合理 を設定してきたわけですわ。

催洛

総 員 回収者数 191人146人

生徒会に関して

生徒総会への出席を快く思

1

いますか。

イ、思う。

D C

41 9 11 10 11

思わない

> 計 D C

ハ、無答

CB

ハ、無答

計 D

D C B

昼休みの集合に関して いまか。 、どういう気持で参加して イ、気持ちよく並べる

いやいや参加している 計 D C B 34 14 1 3

クラブ活動 忿 加 不参加 無 答 勉強と 36 2 両立しない 14 2 21 答 5 6

今回の調査の主旨

高ーの、クラブおよび生徒会に対力は得られまいし、不満や弊害 三日、全高ー生を対象にしてアンろう。 する意識調査のため、六、七、十が増大する結果を生むだけであ 来年度の生徒活動の主体となるの自主性を認めなければ生徒の協 ることにのみ重点をおいて、生徒

4 12 33 10 77 20 22 6 29 当はオッカアが忙しくて無理だ う一つは便所)。それをあんな まずくて高いもので。でも、弁 ることのうちの一つなんだ(も

計 D CBA - 計 D C 21 D C

無答

思ったのだ。

が経済の原則にも適していると し、同じ品なら安い方を買うの

然」とすました顔でいったのを

思いだした。それならオレはい

たら洛星の食堂で食うのが当

オレは教師が「洛星に入学し

には購買の自由があるはずだ

にいってはならない。」とオレ

併しよう

それが何だ。補導部は「食い

う。「この際、洛星は赤字経営

及び食堂合併のために立命と合

ていると思いますか。 イ、思う。 生徒会は生徒のために活動し

C D 認めない 計 D C

無答 B D C B 92 30

題であろう 一般に、 生徒会活動について

計 D C

が、八十八名と過半数を越してい があるようだ。生徒会が生徒のた も、多くの者が進んで参加しよう 義務である生徒総会の出席にして る状況では、生徒会の必要性すら めにあると思わないという意見 という現象も、こちらの方に原因 と思ってい 低いようだ。会員としての最低の ない。執行部の先走り

るべきではないか。旧習を尊重す でしょう。 乞、御協力! 十二名もいる以上、当然廃止され一のあちとちでまた校外で見られる 検討すべき時期が来ているといえ一なると思います。)からは、どこ 意義を認めないという者が、九 昼休みの集合について たいと思います。我々の姿は校合 求めてこちらから飛び出して行き 省し、次の号(多分、四月発行に にいるかわからない多くの学友を 僕達はこれらの失敗を謙虚に反

るのではな

いだろうか。



立命と合併しよう 洛星

屋飯をくってきた。

まで目をつぶって鼻をつまんで

うよりも

なぜオレ達が立命へ

編 集 後 記

食いにい

くのか。とか「なぜ洛

ろからオレは人生が明るくなっ

ところがである。今年の春で

学に食堂があったのだ。安いし

てきた。洛星の近くの立命館大

はないか

万事にそんな態度だ 説明するのが当然で

行できた事を局員一同大きな喜び

き続いて、ここに復刊第二号を発

二月九日発行の復刊第一号に引

としています。今回の復刊第二号

という事を

星の食堂は改善されないのか。」

からこの頃いろんなことが学校

味も悪くないし豊富だ。オレは

で起るのだ

そんな事を思いながら四時間

めたので、残された我々(全員高

高二の高橋局長が新聞局をや

一)が協力して編集・発行しま

前回の復刊第一号については、

オレが各星へ入学してからズッ 洛星の食堂はまずい。これは うのはこの学校 の人間的になれ でのたった二つ ろうか屋飯とい 考えているのだ たい学校は何と ることだ。だい ト思い続けてい 太郎

> にいった。別に悪いことをして いるつもりはなかった。消費者

> > 目が終わ

れば食堂へいかねばな

らぬと思うオレである。

毎日自転車で仲間と一緒に食い

ロ、入っていない。

A

し。そう思いながら、オレは今 に弾圧を加えたのである。 集合の意義を認めますか だいたい一方的に食うなとい イ、認める。 計

君の御協力

刀を感謝します。なお、

49 5 も加わって です。 どうかを問うために設けたもの っているこれらの行事の意義が果 して生徒の問に定着しているか クラブ活動について

よく知っています。新聞局では、

両立すると答えた者の方が多い る。勉強の関係については両者が ず、半数近くの者がどのクラブに 参加というたて前にもかかわら なら次からの新聞作りに積極的に ている者が半数以下というのは問しきません。我々がまだ新聞作りに (別表参照)のに、現実に活動し まず目につくのは、全員クラブに、もしとの記事に不満があるの 生徒会に対する関心は いないということであ 因であると言ってすますことはで これは単に「生徒の無関心」が原 も、全く反応がありませんでした。 した。しかし前回の新聞において 参加してほしい。」と言って来ま 前回の 新聞にも 書いて あるよう

なものであった為、多くの人達に ます溝を深めてゆき、新聞局は全 何らアピールすることなく、ます にそれらの記事が独薄的、抽象的 が埋まり(「投稿中心」が局の方 か集まりませんでした。)、さら 針であった為、そのような記事し く無視されるに至りました。 特定の意識層の記事ばかりで紙面 慣れていないために、どうしても

た復刊第一号を出す以前から第二 みなざんの声が我々に届かず、ま ずなのに、僕達の耳には伝わりま せんでした。 と批判されるべき点が沢山あるは あまり(全然と言っても良いかも をがっかりさせました。いろいろ 知れません。)反応がなく、我々 今回の復刊第二号についても、

一号の企画を決定していた事もあっ て、前回の教訓を生かした新聞を 生徒の意識を反映していない事を 作る事ができませんでした。 僕達は今の洛星新聞が大多数の

問は集合を例にとって、習慣とな 最後の昼休みの集合についての質